



水草の観察

学習のねらい

- びわ湖の水草や付着物を観察することで、びわ湖の水生植物に興味・関心をもつことができる。
- 水草の種類について調べることで、びわ湖の水生植物の多様性に気づくことができる。
- 外来種の増加や水草の異常繁茂など、びわ湖の課題について考えることができる。
- びわ湖の水生植物と水と人々の生活の関わりについて考えることができる。

準備物

うみのこ船内で準備できるもの

- ・藻刈り器セット ・(タブレットPC)
- ・ヨシのパネル ・ピンセット ・ルーペ ・バット
- ・観察用水槽 ・実物投影機 ・(電子黒板)
- ・ワタカスライド資料 ・水中カメラ
- ・ラミネーター ・うみのこ乗船記念スタンプ

乗船校で準備するもの

- ・水草の観察ワークシート
- ・標本用の採取済の水草（水草を乾燥させておく）
- ・台紙 ・ペン ・マジック ・ラミネートシート
- ・ワタカ（水産課に問い合わせで準備することも可能）

主な学習の流れ

ポイント（○）及び留意点（☆）

はじめ	1. 本学習のめあてを確認する。 2. 水草採取の様子を見学する。	○フローティングスクールのテーマとのつながりを意識して示す。 ☆児童が湖岸に近づきすぎないように指導する。
なか	3. しおりや <u>(タブレットPC)</u> をもとに、採取した水草の種類を見分け、水草の様子や量や付着物を観察し、ワークシートに記録する。 4. 生態系の中での水草の役割や人々の生活との関わりについて考える。	○びわ湖には30種類くらいの水草が分布していることを紹介する。 ○水草の付着物（貝や卵など）を観察することで、水草と水生生物や魚との関係について考えられるようにする。 ○びわ湖の生態系について考えられるように、外来種の異常繁茂が原因となる環境問題やヨシ帯の減少について紹介する。 ○ヨシの水質浄化作用や人々の生活に活用されてきたことを紹介する。 ○ワタカの放流が水草を減らす取組の1つとして活用されていることを紹介する。 <u>(ワタカスライド資料活用)</u> ☆ワタカを用意できた場合は、ワタカの観察を行うこともできる。 ☆乾燥させた水草を使って、標本をつくり、航海後の学習に利用することも可能。
おわり	5. 本学習のまとめをする。	○フローティングスクールのテーマとのつながりを意識してまとめができるようにする。 ○学習のまとめ②や乗船後の学習につながるようにする。

（※1）活動場所・・・多目的室・活動室・実験室・学習室 （※2）実施時期・・・通年

※うみのこ船内で準備できるものについては、児童・指導者の人数や班の数に合わせて準備することができます。